

教科・科目		数学 I			単位数	3単位	
					対象学年		1学年
担当者	1組	2組	3組	4組	5組		
教科書		数研出版 新 高校の数学 I					
補助教材		数研出版 新 高校の数学 I 対応 教科書学習ノート					
目標		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等			
教科の目標		数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。			
科目の目標		数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。			
	単元名	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準		知 思 態	配当時数
I 学期	数と式	知 数を実数まで拡張し、簡単な無理数の四則計算をする。二次の乗法公式及び因数分解の公式を理解する。	・整数 ・実数	知 小テスト		〇〇〇	18
		思 集合の考えを用いて論理的に考察し、簡単な命題を証明する。問題を解決する際に、学習した計算の方法と関連付けて、式を適切に利用する。		思 小テスト 授業ノート			
		学 既習事項を活用することのよさを認識する。		態 授業態度			
	中間考査					〇〇	1
数と式	知 不等式の解の意味や不等式の性質について理解し、一次不等式の解を求める。集合と命題に関する基本的な概念を理解する。	・一次不等式 ・集合と命題	知 小テスト		〇〇〇	4	
	思 不等式の性質を基に一次不等式を解く方法を考察する。日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、一次不等式を問題解決に活用する。		思 小テスト・授業ノート				
	学 身近な事象を題材に、集合的な考察や、不等式など式として扱うことで、数学と結びつける態度をもつ。		態 授業態度・提出物				
二次関数	知 二次関数の値の変化やグラフの特徴について理解する。	・関数とグラフ	知 小テスト		〇〇〇	15	
	思 二次関数の式とグラフとの関係について、コンピュータなどの情報機器を用いてグラフをかくなどして多面的に考察する。		思 小テスト・授業ノート				
	学 グラフを数式で表現することのよさを認識しようとする。		態 授業態度・提出物				
期末考査					〇〇	1	

2学期	二次関数	知 二次関数の最大値や最小値を求める。二次方程式の解と二次関数のグラフとの関係について理解する。二次不等式の解と二次関数のグラフとの関係について理解し、二次関数のグラフを用いて二次不等式の解を求める。	・二次関数の最大・最小 ・二次関数と方程式・不等式	知 小テスト	〇〇〇	22	
		思 二つの数量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりする。					思 小テスト・授業ノート
		学 事象をグラフで可視化し、特徴を捉え考察する態度を身に付ける。					態 授業態度・提出物
	図形と計量	知 鋭角の三角比の意味と相互関係について理解する。	・鋭角の三角比	知 小テスト	〇〇〇	7	
		思 図形の構成要素間の関係を三角比を用いて表現するとともに、定理や公式として導く。					思 小テスト・授業ノート
学 既習事項を活用することのよさを認識する。		態 授業態度・提出物					
中間考査				〇〇	1		
図形と計量	知 三角比を鈍角まで拡張する意義を理解し、鋭角・鈍角の三角比の関連を理解する。正弦定理や余弦定理について三角形の決定条件や三平方の定理と関連付けて理解し、三角形の辺の長さや角の大きさなどを求める。	・鈍角の三角比 ・図形と計量	知 小テスト	〇〇〇	19		
	思 図形の構成要素間の関係を三角比を用いて表現するとともに、定理や公式として導く。図形の構成要素間の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりする。					思 小テスト・授業ノート	
	学 計量や測量に三角比が活用されている事例を知り、実測が難しい事項を数学的に処理する視点を身に付ける。					態 授業態度・提出物	
期末考査				〇〇	1		
3学期	データの分析	知 分散、標準偏差、散布図及び相関係数の意味やその使い方を理解する。コンピュータなどの情報機器を用いるなどして、データを表やグラフに整理したり、分散や標準偏差などの基本的な統計量を求めたりする。具体的な事象において仮説検定の考え方を理解する。	・データの整理と分析 ・データの相関 ・統計的な見方	知 小テスト	〇〇〇	27	
		思 データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察する。目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現する。不確実な事象の起こりやすさに着目し、主張の妥当性について、実験などを通して判断したり、批判的に考察したりする。					思 小テスト・授業ノート
		学 日常や社会の事象について、統計処理を通して分析し、データ同士の比較をするなど考察をする習慣を身に付ける。					態 授業態度・提出物
期末考査				〇〇	1		

指導目標 知=知識及び技能 思=思考力、判断力、表現力等 学=学びに向かう力、人間性等

評価規準 知=知識・技能 思=思考・判断・表現 態=主体的に学習に取り組む態度

教科・科目A1:R38		数学A			単位数	2単位	
					対象学年	1学年	
担当者	1組	2組	3組	4組	5組		
教科書		数研出版 新 高校の数学A					
補助教材		数研出版 新 高校の数学A 対応 教科書学習ノート 数学A					
目標		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等			
教科の目標		数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。			
科目の目標		図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	図形の性質を見いだし、論理的に考察する力、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、事象に数学の構造を見いだし、数理的に考察する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。			
	単元名	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知 態	配当時数	
1学期	集合	知 集合に関する基本的な概念を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>集合の表し方</li> <li>部分集合</li> <li>共通部分と和集合</li> <li>補集合</li> </ul>	知 小テスト	〇〇〇	5	
		思 部分集合、共通部分、和集合、補集合をベン図を利用し表現することができる。		思 小テスト プリント			
		学		態 授業態度			
	場合の数	知 集合の要素の個数に関する基本的な関係や和の法則、積の法則などの数え上げの原則について理解している。 思 和の法則と積の法則の有意性に気づき、それらの違いを明確に説明することができる。 学 身近な事象において、和の法則や積の法則を活用できる場面を見いだそうとしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>集合の要素の個数</li> <li>補集合の要素の個数</li> <li>樹形図</li> <li>和の法則</li> <li>積の法則</li> </ul>	知 小テスト 思 小テスト プリント 態 授業態度	〇〇〇	10	
	中間考査				〇〇	1	
順列・組み合わせ	知 具体的な事象を基に順列及び組合せの意味を理解し、順列の総数や組合せの総数を求めることができる。 思 事象の構造などに着目し、場合の数を求める方法を多面的に考察することができる。 学 身近な事象から具体的に順列や組合せを見いだそうとしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>順列</li> <li>円順列</li> <li>重複順列</li> <li>組合せの総数</li> <li>同じものを含む順列</li> </ul>	知 小テスト 思 小テスト プリント 態 授業態度	〇〇〇	10		
期末考査				〇〇	1		
2学期	確率とその基本性質	知 確率の意味や基本的な法則についての理解を深め、それらを用いて事象の確率や期待値を求めることができる。 思 確率の性質や法則に着目し、確率を求める方法を多面的に考察することができる。 学	<ul style="list-style-type: none"> <li>試行と事象</li> <li>事象の確率</li> <li>積事象</li> <li>和事象</li> <li>排反事象</li> <li>余事象の確率</li> </ul>	知 小テスト 思 小テスト プリント 態	〇〇〇	14	
	中間考査				〇〇	1	

	いろいろな確率	知 独立な試行の意味を理解し、独立な試行の確率を求めることができる。 条件付き確率の意味を理解し、簡単な場合について条件付き確率を求めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・独立な試行</li> <li>・反復試行</li> <li>・条件付き確率</li> <li>・期待値</li> </ul>	知 小テスト	〇〇〇	14
		思 独立な試行、反復試行、期待値など判断し確率を求めることができる。		思 小テスト プリント		
		学 いろいろな確率について身近な事象から求めようとしている		態 授業態度		
	期末考査				〇〇	1
3学期	三角形の性質	知 三角形に関する基本的な性質を理解することができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内分と外分</li> <li>・平行線の性質</li> <li>・三角形の重心</li> <li>・三角形の外心</li> <li>・三角形の内心</li> <li>・チェバの定理</li> <li>・メネラウスの定理</li> </ul>	知 小テスト	〇〇〇	10
		思 図形の構成要素間の関係や既に学習した図形の性質に着目し、図形の新たな性質を見だし、その性質について論理的に考察したり説明したりすることができる。		思 小テスト ノート		
		学 図形の性質を見出そうとしている。		態 授業態度		
	円の性質	知 円に関する基本的な性質に関して理解することができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・円周角の定理とその逆</li> <li>・円に内接する四角形</li> <li>・円と直線</li> <li>・接線と弦のつくる角</li> <li>・方べきの定理</li> <li>・2つの円の位置関係</li> <li>・2つの円の共通接線</li> </ul>	知 小テスト	〇〇〇	10
思 図形の性質について統一的・発展的に考察することができる。		思 小テスト ノート				
学 円の性質を見出そうとしている。		態 授業態度				
期末考査				〇〇	1	

指導目標 知=知識及び技能 思=思考力、判断力、表現力等 学=学びに向かう力、人間性等

評価規準 知=知識・技能 思=思考・判断・表現 態=主体的に学習に取り組む態度

教科・科目	数学科・数学II			単位数	4単位	
				対象学年	2学年	
担当者	1組	2組	3組	4組	5組	
教科書	第一学習社 新編 数学II					
補助教材	第一学習社 新課程版 ネオパル					
目標	知識及び技能		思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等		
教科の目標	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数 学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。		数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。		
科目の目標	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。		数や式の性質、座標平面上の図形、関数関係に着目して論理的に考察し、問題解決の過程を振り返りながら、事象を的確に表現・発展的に捉える力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。		
	単元名	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知 思 態	配当時数
1学期	式と証明・複素数と方程式	知 整式・分数式・複素数・方程式の計算や証明の基本を正確に理解し、活用できる力を身につけさせる。	①整式の乗法因数分解 ②整式の除法 ③分数式の計算 ①複素数の演算 ②2次方程式の解	知 基本的な知識を用いて、各単元の問題を解くことができる	〇〇〇	30
		思 計算過程や証明の根拠を論理的に説明し、多面的に問題を分析して的確に表現する力を養う。		思 発展的な内容に粘り強く取り組み、論理的に問題解決を行っている		
		学 自ら疑問を持ち、誤りを見直し、学習の意義を見いだしながら主体的に学び続ける態度を育む。		態 授業に出席し、数学の学習に主体的に取り組んでいる		
	中間考査				〇〇	1
複素数と方程式・図形と方程式	知 直線上・平面上の点の座標、直線や円の方程式、2直線の平行・垂直の条件、および円と直線の位置関係を正確に理解し、活用できる力を身につけさせる。	③剰余の定理・因数定理 ④高次方程式 ①直線上の点の座標 ②平面上の点の座標 ③直線の方程式 ④2直線の平行と垂直 ⑤円の方程式 ⑥円と直線	知 基本的な知識を用いて、各単元の問題を解くことができる	〇〇〇	30	
	思 座標幾何における図形や方程式の性質を論理的に説明し、多面的に問題を分析して的確に表現する力を養う。		思 発展的な内容に粘り強く取り組み、論理的に問題解決を行っている			
	学 自ら疑問を持ち、誤りを見直し、学習の意義を見いだしながら主体的に学び続ける態度を育む。		態 授業に出席し、数学の学習に主体的に取り組んでいる			
期末考査				〇〇	1	
2学期	三角関数	知 一般角、弧度法、三角関数、加法定理を正確に理解し、活用できる力を身につけさせる。	①一般角 ②弧度法 ③三角関数 ④加法定理	知 基本的な知識を用いて、各単元の問題を解くことができる	〇〇〇	30
		思 三角関数の性質を論理的に説明し、多面的に問題を分析して的確に表現する力を養う。		思 発展的な内容に粘り強く取り組み、論理的に問題解決を行っている		
		学 自ら疑問を持ち、誤りを見直し、学習の意義を見いだしながら主体的に学び続ける態度を育む。		態 授業に出席し、数学の学習に主体的に取り組んでいる		
	中間考査				〇〇	1

2学期	指数関数 対数関数	知 指数の性質、対数の性質、その淡輪仕方を正確に理解し、活用できる力を身につけさせる。	①指数・累乗根・指数の拡張 ②指数関数 ③対数 ④対数関数	知 基本的な知識を用いて、各単元の問題を解くことができる	〇〇〇	30
		思 指数関数・対数関数の性質を論理的に説明し、多面的に問題を分析して的確に表現する力を養う。		思 発展的な内容に粘り強く取り組み、論理的に問題解決を行っている		
学 自ら疑問を持ち、誤りを見直し、学習の意義を見いだしながら主体的に学び続ける態度を育む。		態 授業に出席し、数学の学習に主体的に取り組んでいる				
	期末考査				〇〇	1
3学期	微分積分	知 関数の微分・積分を正確に理解し、活用できる力を身につけさせる。	①導関数 ②関数の微分、接線の方程式 ③かんすうの増加・減少 ④不定積分 ⑤定積分 ⑥定積分と面積	知 基本的な知識を用いて、各単元の問題を解くことができる	〇〇〇	31
		思 微分・積分の性質を論理的に説明し、多面的に問題を分析して的確に表現する力を養う。		思 発展的な内容に粘り強く取り組み、論理的に問題解決を行っている		
学 自ら疑問を持ち、誤りを見直し、学習の意義を見いだしながら主体的に学び続ける態度を育む。		態 授業に出席し、数学の学習に主体的に取り組んでいる				
	期末考査				〇〇	1

指導目標 知=知識及び技能 思=思考力、判断力、表現力等 学=学びに向かう力、人間性等

評価規準 知=知識・技能 思=思考・判断・表現 態=主体的に学習に取り組む態度

教科・科目		数学・数学B			単位数	2単位	
					対象学年	2学年	
担当者		XI					
教科書		第一学習社 新編 数学B					
補助教材		第一学習社 ネオパル 数学B					
目標		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等			
教科の目標		数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	数列、統計的な推測及び数学と社会生活の分野において、数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、事象に数学の構造を見い出そうとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり評価・改善したりしようとする態度を身に付けている。			
科目の目標		数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。			
単元名	単元の具体的な指導目標		指導項目・内容	評価規準		知 思 態	配当時数
1学期	数列	知 与えられた数列の規則性を理解し、一般項を求めることができる。	数列と一般項 等差数列 等差数列の和	知 等差数列について理解している		〇〇〇	8
		思 数列の一般項から各項を求めることができる		思 等差数列の一般項を求めることについて考察することができる			
		学 自ら数列の一般項について推測することができる		態 身の回りの数列について興味をもち調べることができる			
	数列	知 等比数列の一般項や和を求めることができる	等比数列 等比数列の和	知 等比数列の一般項や和を求めることができる。		〇〇〇	7
		思 等比数列の初項や公比について考察することができる		思 等比数列の一般項や和を求める過程を考察することができる。			
		学 身の回りにある等比数列を調べることができる		態 等比数列の一般項や和について関心をもち、進んでこれらを求めてみようとする。			
	中間調査				〇〇	1	
数列	知 自然数の2乗の和を求めることができる。	自然数の2乗の和	知 2乗の和の仕組みについて理解できる		〇〇〇	6	
	思 自然数の2乗の和について成り立ちを考察することができる		思 自然数の2乗の和の公式を導く過程を考察することができる。				
	学 2乗したものやそうでないものについて、違いを調べることができる		態 自然数の2乗の和について関心をもち、工夫して求めてみようとする。				
数列	知 $\Sigma$ の意味と表し方を理解することができる。	和の記号 $\Sigma$ とその性質	知 数列の和を、和の記号 $\Sigma$ を用いて処理することができる。		〇〇〇	10	
	思 $\Sigma$ を用いて表された等比数列の和を求めることができる。		思 和の記号 $\Sigma$ の性質を導く過程を考察することができる。				
	学 $\Sigma$ の性質を理解している。		態 身の回りの数列を $\Sigma$ を使って表せるか調べることができる				
期末調査				〇〇	1		
2学期	数列	知 階差数列の一般項を求めることができる。	階差数列	知 階差数列の意味について理解している。		〇〇〇	6
		思 階差数列を用いて一般項を求める過程を考察することができる。		思 階差数列を用いて一般項を求める過程を考察することができる。			
		学 階差数列に関心をもち、これを用いてもとの数列の一般項を求めてみようとする。		態 階差数列に関心をもち、これを用いてもとの数列の一般項を求めてみようとする。			
	数列	知 漸化式で定められた数列の一般項を求めることができる。	漸化式	知 和が与えられている数列の一般項を求めることができる。		〇〇〇	8
思 特性方程式を解くことで、与えられた漸化式を等比数列の形に変形し一般項を求めることができる。		思 漸化式で表された数列の一般項を求める過程を考察することができる。					
学 数列の一般項を推測することで漸化式につながるることができる		態 漸化式で表された数列に関心をもち、進んで一般項を求めてみようとする。					
中間調査				〇〇	1		

	数列	知 数学的帰納法の基本的な考え方を理解することができる。	数学的帰納法	知 数学的帰納法による証明法を理解している。	〇〇〇	6
		思 数学的帰納法を用いて等式の証明をすることができる。		思 数学的帰納法による証明のしくみやよさを考察することができる。		
		学 数列として成り立つことを推測し証明しようとする		態 数学的帰納法に関心を持ち、証明のしくみやよさを知ろうとする。		
	統計的な推測	知 様々な事象の確率分布を求めることができる。	確率変数と確率分布 確率変数の平均	知 確率変数の平均、分散、標準偏差の意味について理解している。	〇〇〇	8
		思 分散、標準偏差を求めることができる。		思 確率変数の平均、分散、標準偏差を導く過程について考察することができる。		
		学 身の回りの統計を調べることができる		態 確率分布の考えについて関心を持ち、これらについて、進んで調べようとする。		
	期末考査				〇〇	1
3学期	統計的な推測	知 二項分布の平均、分散、標準偏差を求めることができる。	二項分布 連続型確率変数	知 二項分布及びその平均、標準偏差について理解する。	〇〇〇	8
		思 二項分布について考察することができる		思 二項分布の平均や標準偏差を求められるようにする。		
		学 身の回りの生活について二項分布で表すことができる		態 二項分布の正規分布による近似に関心を持ち、進んで調べようとする。		
	統計的な推測	知 標準正規分布を用いていろいろな確率を求めることができる。	正規分布 二項分布の正規分布のよ る近似	知 仮説検定の手順や仮説検定に関する用語を理解する。	〇〇〇	6
		思 標本平均の分布を正規分布で近似できるようにする。		思 二項分布の平均や標準偏差を求められるようにする。		
		学 身近なものと統計との関連について調べることができる		態 仮説検定の方法に関心を持ち、身の回りの事柄の判断に生かしてみようとする。		
	学年末考査				〇〇	1

指導目標 知=知識及び技能 思=思考力、判断力、表現力等 学=学びに向かう力、人間性等

評価規準 知=知識・技能 思=思考・判断・表現 態=主体的に学習に取り組む態度

教科・科目		数学・実用数学		単位数	2単位	
				対象学年	2学年	
担当者		X1				
教科書		なし				
補助教材		Gakken 受かる!数学検定3級				
目標		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等		
教科の目標		数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。		
科目の目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>数と式の計算が適切にできる。</li> <li>方程式が解ける</li> <li>関数の基本的な操作ができる</li> <li>確率やデータの基本的な計算ができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>関数の発展的な問題が解ける。</li> <li>平面図形や立体図形の発展的な問題が解ける。</li> <li>問題文を読解し、事象を抽象的にとらえる必要のある問題を解ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>数学検定3級の合格を目指して、数学の学習を主体的に進めることができる</li> </ul>		
	単元名	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知 思 態	配当時数
1学期	1次試験対策	知 基本的な問題を解くことができる	数と式、方程式	知 基本的な問題を解くことができる	〇〇〇	7
		思 発展的な問題を解くことができる		思 発展的な問題を解くことができる		
		学 主体的に学ぶことができる		学 主体的に学習しようとしている		
	2次試験対策	知 基本的な問題を解くことができる	図形、確率、関数、データ	知 基本的な問題を解くことができる	〇〇〇	8
		思 発展的な問題を解くことができる		思 発展的な問題を解くことができる		
		学 主体的に学ぶことができる		学 主体的に学習しようとしている		
	中間考査				〇〇	1
1次試験対策	知 基本的な問題を解くことができる	方程式、関数、図形	知 基本的な問題を解くことができる	〇〇〇	7	
	思 発展的な問題を解くことができる		思 発展的な問題を解くことができる			
	学 主体的に学ぶことができる		学 主体的に学習しようとしている			
2次試験対策	知 基本的な問題を解くことができる	図形、確率、関数、データ	知 基本的な問題を解くことができる	〇〇〇	8	
	思 発展的な問題を解くことができる		思 発展的な問題を解くことができる			
	学 主体的に学ぶことができる		学 主体的に学習しようとしている			
期末考査				〇〇	1	
2学期	1次試験対策	知 基本的な問題を解くことができる	関数、図形、データ	知 基本的な問題を解くことができる	〇〇〇	7
		思 発展的な問題を解くことができる		思 発展的な問題を解くことができる		
		学 主体的に学ぶことができる		学 主体的に学習しようとしている		
	2次試験対策	知 基本的な問題を解くことができる	図形、確率、関数、データ	知 基本的な問題を解くことができる	〇〇〇	8
		思 発展的な問題を解くことができる		思 発展的な問題を解くことができる		
		学 主体的に学ぶことができる		学 主体的に学習しようとしている		
	中間考査				〇〇	1
1次試験対策	知 基本的な問題を解くことができる	数と式、方程式、関数、図形、データ	知 基本的な問題を解くことができる	〇〇〇	7	
	思 発展的な問題を解くことができる		思 発展的な問題を解くことができる			
	学 主体的に学ぶことができる		学 主体的に学習しようとしている			
2次試験対策	知 基本的な問題を解くことができる	図形、確率、関数、データ	知 基本的な問題を解くことができる	〇〇〇	8	
	思 発展的な問題を解くことができる		思 発展的な問題を解くことができる			
	学 主体的に学ぶことができる		学 主体的に学習しようとしている			
期末考査				〇〇	1	

3学期	1次試験対策	知 基本的な問題を解くことができる	数と式、方程式、関数、図形、データ	知 基本的な問題を解くことができる	〇〇〇	7
		思 発展的な問題を解くことができる		思 発展的な問題を解くことができる		
		学 主体的に学ぶことができる		学 主体的に学習しようとしている		
	2次試験対策	知 基本的な問題を解くことができる	図形、確率、関数、データ	知 基本的な問題を解くことができる	〇〇〇	6
		思 発展的な問題を解くことができる		思 発展的な問題を解くことができる		
		学 主体的に学ぶことができる		学 主体的に学習しようとしている		
期末考査				〇〇	1	

指導目標 知=知識及び技能 思=思考力、判断力、表現力等 学=学びに向かう力、人間性等

評価規準 知=知識・技能 思=思考・判断・表現 態=主体的に学習に取り組む態度

教科・科目		進学数学(基礎)		単位数	2単位	
				対象学年	2学年	
担当者		XI				
教科書		なし				
補助教材		ラウンドノート数学 I (実教出版)				
目標		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等		
教科の目標		数学の原理原則を理解し、事象を数学的に表現・処理できる。	事象を数学的に考察し、課題解決に数学を利用できる。	数学の良さを認識し、課題解決に向けて自ら試行錯誤しようとする。		
科目の目標		数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析の分野において、数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり評価・改善したりしようとする態度を身に付けている。		
	単元名	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知 思 態	配当時数
1学期	数と式	知 式の展開や因数分解ができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・式の展開と因数分解</li> <li>・無理数の計算</li> <li>・対称式の計算</li> <li>・二重根号の外し方</li> </ul>	知 式の計算を適切に行うことができる。	〇〇〇	12
		思 式の特徴を捉え、式の変形を見通しよく行うことができる。		思 式の特徴を捉えて、最適な処理を行うことができる。		
		学 問題解決に向けて、自ら取り組もうとしている。		態 問題解決に向けて、自ら取り組もうとしている。		
	中間考査				〇〇	1
2次関数	知 2次関数のグラフをかける	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2次関数のグラフ</li> <li>・2次関数の決定</li> <li>・2次関数の最大最小</li> <li>・1次不等式と2次不等式</li> <li>・絶対値を含む方程式・不等式</li> </ul>	知 2次関数の特徴を捉え、グラフがかけるとともに2次不等式の解法に利用できる。	〇〇〇	14	
	思 事象の最大・最少を2次関数を用いて考察できる。2次不等式に応用できる。		思 2次関数を用いて、事象の最大最小を考察したり、解の配置についてグラフを利用した考察ができる。			
	学 問題解決に向けて、自ら取り組もうとしている。		態 問題解決に向けて、自ら取り組もうとしている。			
期末考査				〇〇	1	
2学期	図形と計量	知 三角比を理解するとともに、その値や値を利用した計算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三角比の定義と拡張</li> <li>・三角比の相互関係</li> <li>・三角方程式・不等式</li> <li>・正弦定理と余弦定理</li> <li>・三角形や四角形の面積</li> <li>・空間図形への利用</li> </ul>	知 三角比を用いて辺の長さや角の大きさを求めたり、三角比を含む方程式や不等式を解くことができる。	〇〇〇	14
		思 式の特徴を捉え、式の変形を見通しよく行うことができる。		思 実際の測量の場面において、空間図形の中に適当な三角形を見出し、三角比や正弦定理などを利用することができる。		
		学 問題解決に向けて、自ら取り組もうとしている。		態 問題解決に向けて、自ら取り組もうとしている。		
中間考査				〇〇	1	
集合と論証	知 集合の包含関係を決定できる。また、包含関係をもとに命題について考察できる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集合の包含関係</li> <li>・集合の要素の個数</li> <li>・命題</li> </ul>	知 逆、裏、対偶や、それらもとの命題との関係を理解している。また、対偶を用いた証明や背理法による証明ができる。	〇〇〇	7	
	思 物事を集合として捉え、包含関係を考察できる。また、命題について審議を考察することができる。		思 2つの条件の間の関係を、命題の真偽と関連付けて説明することができる。			
	学 問題解決に向けて、自ら取り組もうとしている。		態 問題解決に向けて、自ら取り組もうとしている。			

	データの分析	知 与えられたデータをもとに箱ひげ図を作ることができる。また、分散や標準偏差・相関係数を求めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・代表値と箱ひげ図</li> <li>・分散と標準偏差</li> <li>・相関係数</li> </ul>	知 データをもとに箱ひげ図がかけられる。また分散や標準偏差が求められる。	〇〇〇	7
		思 データをもとに複数の変量の組の関係性を考察できる。		思 複数の変量についてのデータを使って、特徴を分析できる。		
		学 問題解決に向けて、自ら取り組もうとしている。		態 問題解決に向けて、自ら取り組もうとしている。		
期末考査				〇〇	1	
3学期	入試演習	知 入試特有の複合問題を解くことができる。	・入試問題	知 入試特有の複合問題を解くことができる。	〇〇〇	21
		思 与えられた問題について、解法を考察できる。		思 与えられた問題について、解法を考察できる。		
		学 問題解決に向けて、自ら取り組もうとしている。		態 問題解決に向けて、自ら取り組もうとしている。		
期末考査				〇〇	1	

指導目標 知=知識及び技能 思=思考力、判断力、表現力等 学=学びに向かう力、人間性等

評価規準 知=知識・技能 思=思考・判断・表現 態=主体的に学習に取り組む態度

教科・科目		数学C			単位数	2単位	
					対象学年	3学年	
担当者		YI					
教科書		新編数学 数学C(第一学習社)					
補助教材		チャート式 解放と演習 数学C(数研出版)					
目標		知識及び技能		思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等		
教科の目標		数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数 学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・ 処理したりする技能を身に付けるようにする。		数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象 の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発 展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象 を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようと する態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判 断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って 考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度 や創造性の基礎を養う。		
科目の目標		ベクトル、平面上の曲線と複素数平面についての 基本的な概念や原理・法則を体 系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫に ついて認識を深め、事象を数学化 したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理 したりする技能を身に付けるよ うにする。		大きさや向きをもった量に着目し、演算法則やその 図形的な意味を考察する力、 図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合 的・発展的に考察する力、数学的 な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現す る力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、 粘り強く柔軟に考え数学的論 拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の 過程を振り返って考察を深めたり、 評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎 を養う。		
	単元名	単元の具体的な指導目標		指導項目・内容	評価規準	知 思 態	配当時数
I 学期	ベクトルとその演算	<p>知</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ベクトルの意味を理解している。</li> <li>ベクトルの加法、減法、実数倍を正しく求めることができる。</li> <li>ベクトルの分解について理解している。</li> <li>ベクトルの成分表示について理解している。</li> <li>成分表示されたベクトルについて、演算をしたり大きさを求めたりすることができる。</li> <li>ベクトルの内積及び内積の性質について理解している。</li> <li>2つのベクトルの内積やなす角を求めることができる。</li> <li>ベクトルの垂直条件について理解し、問題解決の場面で活用することができる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>ベクトルの意味</li> <li>ベクトルの演算</li> <li>ベクトルの成分</li> <li>ベクトルの内積</li> </ul>	<p>知</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ベクトルが向きと大きさをもつ量であることについて理解している。</li> <li>ベクトルの加法、減法、実数倍を図示したり、ベクトルを分解したりすることができる。</li> <li>成分表示されたベクトルについて、演算をしたり大きさを求めたりすることができる。</li> <li>ベクトルの内積やなす角を求めることができる。</li> <li>ベクトルの内積の性質や垂直条件を理解し、問題解決の場面で活用することができる。</li> </ul>	〇〇〇	15
		<p>思</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ベクトルの加法、減法、実数倍の性質を導く過程を考察することができる。</li> <li>成分表示されたベクトルの演算法則を導く過程を考察することができる。</li> <li>内積の成分による表現を導く過程について考察することができる。</li> <li>ベクトルの内積の性質を導く過程を考察することができる。</li> </ul>			<p>思</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ベクトルの加法、減法、実数倍の性質を導く過程を考察することができる。</li> <li>成分表示されたベクトルの演算法則を導く過程を考察することができる。</li> <li>内積の成分による表現を導く過程を考察することができる。</li> <li>ベクトルの内積の性質を導く過程を考察することができる。</li> </ul>		
		<p>学</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>身近に見られる向きと大きさをもった量に関心をもち、調べようとする。</li> <li>ベクトルの加法、減法、実数倍に関心をもち、これらについて調べようとする。</li> <li>ベクトルの分解について関心をもち、調べようとする。</li> <li>ベクトルを数の組で表すことに関心をもち、これによって加法、減法、実数倍を見直そうとする。</li> <li>ベクトルの内積について関心をもち、内積の性質などを調べようとする。</li> </ul>			<p>態</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>身近に見られる向きと大きさをもつ量に関心をもち、ベクトルについて調べてみようとする。</li> <li>ベクトルの分解に関心をもち、ベクトルの一次独立や一次従属について調べてみようとする。</li> <li>ベクトルを数の組で表すことに関心をもち、図形的に定義された加法、減法、実数倍について定義を見直そうとする。</li> <li>ベクトルの内積に関心をもち、内積の性質などについて調べてみようとする。</li> </ul>		
I 学期	平面図形とベクトル	<p>知</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>位置ベクトルの意味について理解している。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>位置ベクトル</li> </ul>	<p>知</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>位置ベクトルの意味を理解し、線分の内分点や外分点、三角形の重心の位置ベクトルを求めることができる。</li> </ul>	〇〇〇	5
		<p>思</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>線分の内分点、外分点や三角形の重心の位置ベクトルを導く過程を考察することができる。</li> </ul>			<p>思</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>線分の内分点や外分点、三角形の重心の位置ベクトルを導く過程を考察することができる。</li> </ul>		
		<p>学</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>位置ベクトルの考えに関心をもち、これによって平面図形のいろいろな性質を調べようとする。</li> </ul>			<p>態</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>位置ベクトルの考えに関心をもち、位置ベクトルの利用によって平面図形のいろいろな性質を導いてみようとする。</li> </ul>		
	中間考査					〇〇〇	1

<p>平面図形とベクトル</p>	<p>知 ・線分の内分点, 外分点や三角形の重心の位置ベクトルを求めることができる。 ・位置ベクトルを用いて, 平面図形の性質を導くことができる。 ・ベクトル方程式に関する用語の意味を理解している。 ・条件を満たす直線や円のベクトル方程式を求めることができる。</p> <p>思 ・ベクトルを用いて, 平面図形の性質を導く過程を考察することができる。 ・直線や円のベクトル方程式を導く過程を考察することができる。</p> <p>学 ・位置ベクトルの考えに関心をもち, これによって平面図形のいろいろな性質を調べようとする。 ・ベクトル方程式の考えに関心をもち, これについて調べようとする。</p>	<p>・ベクトルの図形への応用 ・ベクトル方程式</p>	<p>知 ・位置ベクトルを用いて平面図形の性質を導くことができる。 ・条件を満たす直線や円のベクトル方程式を求めることができる。</p> <p>思 ・位置ベクトルを用いて平面図形の性質を導く過程を考察することができる。 ・直線や円のベクトル方程式を導く過程を考察することができる。</p> <p>態 ・位置ベクトルの考えに関心をもち, 位置ベクトルの利用によって平面図形のいろいろな性質を導いてみようとする。 ・ベクトル方程式の考えに関心をもち, いろいろな図形のベクトル方程式について調べてみようとする。</p>	<p>〇〇〇</p>	<p>10</p>
<p>空間のベクトル</p>	<p>知 ・空間の座標に関する基本的な用語の意味を理解している。 ・座標平面に平行な平面の方程式を求めることができる。 ・空間のベクトルの演算について理解している。 ・空間のベクトルの成分について理解し, 成分による演算ができる。 ・空間の2つのベクトルの内積やなす角を求めることができる。</p> <p>思 ・位置ベクトルを用いて空間図形の性質を導く過程を考察することができる。</p> <p>学 ・空間の座標について関心をもち, 調べようとする。 ・空間のベクトルについて関心をもち, 空間のベクトルの性質を調べようとする。 ・空間のベクトルの内積に関心をもち, 調べようとする。</p>	<p>・空間の座標 ・空間のベクトルの演算と成分 ・空間のベクトルの内積</p>	<p>知 ・空間の点の座標及び座標平面に平行な平面の方程式を求めることができる。 ・空間のベクトルの成分について理解し, 成分による演算を行うことができる。 ・空間の2つのベクトルの内積やなす角を求めることができる。 ・空間のベクトルの垂直条件を理解し, 問題解決の場面に活用することができる。</p> <p>思 ・位置ベクトルを用いて空間図形の性質を導く過程を考察することができる。</p> <p>態 ・空間の座標に関心をもち, 空間の座標や空間図形の方程式について調べてみようとする。 ・空間のベクトルに関心をもち, 空間のベクトルの性質や演算について調べてみようとする。 ・空間のベクトルの内積や平行・垂直に関心をもち, 問題解決の場面に活用してみようとする。</p>	<p>〇〇〇</p>	<p>9</p>
<p>期末考査</p>				<p>〇〇</p>	<p>1</p>
<p>空間のベクトル</p>	<p>知 ・空間のベクトルの平行条件や垂直条件について理解し, 問題解決の場面で活用することができる。 ・位置ベクトルを用いて, 空間図形の性質を導くことができる。 ・原点を中心とする球面の方程式を求めることができる。</p> <p>思 ・空間図形の方程式を導く過程を考察することができる。</p> <p>学 ・空間のベクトルの平行・垂直に関心をもち, 調べようとする。 ・ベクトルを用いて空間図形の性質を調べることに関心をもち, 調べようとする。</p>	<p>・空間の位置ベクトル ・ベクトル空間図形への応用 ・球面の方程式</p>	<p>知 ・位置ベクトルを用いて空間図形の性質を導くことができる。 ・球面の定義を理解し, 空間の球面の方程式を求めることができる。</p> <p>思 ・空間図形の方程式を導く過程を考察することができる。</p> <p>態 ・ベクトルを用いて空間図形の性質を調べることに関心をもち, いろいろな性質を調べてみようとする。</p>	<p>〇〇〇</p>	<p>6</p>
	<p>知 ・複素数と座標平面上の点の対応について理解し, 複素数を図示することができる。 ・共役な複素数の性質や図形的意味を理解している。 ・複素数の加法, 減法, 実数倍の図形的意味を理解し, 図示することができる。 ・複素数の極形式の意味を理解し, 極形式を求めることができる。 ・複素数の乗法, 除法の図形的意味を理解し, 複素数の極形式を用いて積や商を計算することができる。</p>	<p>・複素数 ・複素数平面 ・複素数の極形式</p>	<p>知 ・複素数と座標平面上の点との対応について理解し, 複素数を図示することができる。 ・複素数の加法, 減法, 実数倍の図形的意味を理解し, それらを複素数平面上に図示することができる。 ・複素数の極形式の意味を理解し, 極形式を求めることができる。 ・複素数の乗法, 除法の図形的意味を理解し, 複素数の極形式を用いて積や商を計算することができる。</p>		

2学期	複素数平面	<p>思</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・複素数と座標平面上の点の対応について考察することができる。</li> <li>・共役な複素数の図形的意味について考察することができる。</li> <li>・複素数の加法、減法、実数倍の図形的意味について考察することができる。</li> <li>・複素数の極形式を導く過程を考察することができる。</li> </ul> <p>学</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・複素数の図示について関心をもち、調べようとする。</li> <li>・複素数の加法、減法、実数倍の図形的意味について関心をもち、調べようとする。</li> <li>・複素数の極形式について関心をもち、調べようとする。</li> </ul>		<p>思</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・複素数と座標平面上の点との対応について考察することができる。</li> <li>・複素数の加法、減法、実数倍の図形的意味を考察することができる。</li> <li>・複素数の極形式を導く過程を考察することができる。</li> <li>・複素数の乗法、除法の図形的意味を考察することができる。</li> </ul> <p>態</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・複素数の図示や加法、減法、実数倍の図形的意味に関心をもち、それらについて調べてみようとする。</li> <li>・複素数の極形式や乗法、除法の図形的意味に関心をもち、それらについて調べてみようとする。</li> </ul>	〇〇〇	8
	中間考査				〇〇	1
	複素数平面	<p>知</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ド・モアブルの定理を用いた複素数の計算ができる。</li> <li>・複素数の<math>n</math>乗根を求めることができる。</li> <li>・複素数平面上の内分点、外分点や2点間の距離を求めることができる。</li> <li>・複素数平面上の3点の位置関係を調べることができる。</li> </ul> <p>思</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ド・モアブルの定理を導く過程を考察することができる。</li> <li>・複素数平面上の内分点・外分点を求める過程を考察することができる。</li> <li>・複素数平面上の3点の位置関係について考察することができる。</li> </ul> <p>学</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ド・モアブルの定理について関心をもち、調べようとする。</li> <li>・複素数平面上の図形について関心をもち、調べようとする。</li> </ul>	<p>・ド・モアブルの定理</p> <p>・図形へ応用</p>	<p>知</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ド・モアブルの定理を用いて、複素数の累乗や累乗根を計算することができる。</li> <li>・複素数平面上の内分点、外分点や2点間の距離を求めることができる。</li> <li>・複素数平面上の3点の位置関係を調べることができる。</li> </ul> <p>思</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ド・モアブルの定理を導く過程を考察することができる。</li> <li>・複素数平面上の内分点、外分点を求める過程を考察することができる。</li> <li>・複素数平面上の3点の位置関係を調べる方法について説明することができる。</li> </ul> <p>態</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ド・モアブルの定理に関心をもち、累乗や累乗根を計算する場面に活用してみようとする。</li> <li>・複素数平面上の図形に関心をもち、問題解決の場面に活用してみようとする。</li> </ul>	〇〇〇	5
	2次曲線	<p>知</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・放物線、楕円、双曲線に関する基本的な用語の意味を理解している。</li> <li>・与えられた条件から、放物線の方程式や焦点、準線などを求めることができる。</li> <li>・与えられた条件から、楕円の方程式や焦点、長軸及び短軸の長さなどを求めることができる。</li> <li>・与えられた条件から、双曲線の方程式や焦点、漸近線などを求めることができる。</li> </ul> <p>思</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・放物線、楕円、双曲線の方程式の標準形を導く過程を考察することができる。</li> <li>・双曲線の漸近線を導く過程を考察することができる。</li> </ul> <p>学</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・放物線や楕円、双曲線を、幾何学的な定義にもとづいてとらえることに関心をもち、調べようとする。</li> <li>・双曲線の漸近線について関心をもち、調べようとする。</li> </ul>	<p>・放物線</p> <p>・楕円</p> <p>・双曲線</p>	<p>知</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・与えられた条件から、放物線の方程式や焦点、準線などを求めることができる。</li> <li>・与えられた条件から、楕円の方程式や焦点、長軸及び短軸の長さなどを求めることができる。</li> <li>・与えられた条件から、双曲線の方程式や焦点、漸近線などを求めることができる。</li> </ul> <p>思</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・放物線、楕円、双曲線の図形的な定義を理解し、それらの定義から方程式を導く過程を考察することができる。</li> <li>・双曲線の漸近線の方程式を導く過程を考察することができる。</li> </ul> <p>態</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・放物線や楕円、双曲線の図形的な定義に関心をもち、図形的な性質について考察を深めたり、いろいろな図形の方程式と図形的な性質との関連を調べたりしようとする。</li> </ul>	〇〇〇	10
期末考査				〇〇	1	

3学期	2次曲線	<p><b>知</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 曲線の平行移動の式について理解している。</li> <li>・ 曲線を平行移動した図形の方程式を求めたり、方程式から図形の形状を調べたりすることができる。</li> <li>・ 2次曲線と直線の位置関係について理解及び判定することができる。</li> </ul> <p><b>思</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 曲線の平行移動の式を導く過程を考察することができる。</li> <li>・ 2次曲線と直線の位置関係を調べる過程を考察することができる。</li> </ul> <p><b>学</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 曲線の平行移動について関心をもち、調べようとする。</li> <li>・ 2次曲線と直線の位置関係について関心をもち、調べようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2次曲線の平行移動</li> <li>・ 2次曲線と直線</li> </ul>	<p><b>知</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 曲線の平行移動の式について理解し、曲線を平行移動した図形の方程式を求めたり、方程式から図形の形状を調べたりすることができる。</li> <li>・ 判別式の利用によって2次曲線と直線の位置関係を判定することができる。</li> </ul> <p><b>思</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 曲線の平行移動の式を導く過程を考察することができる。</li> <li>・ 2次曲線と直線の位置関係を調べる手順について説明することができる。</li> </ul> <p><b>態</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2次曲線や曲線の移動に関心をもち、いろいろな図形の方程式や移動について調べてみようとする。</li> <li>・ 2次曲線と直線の位置関係に関心をもち、接線の方程式を求めるなどの具体的な場面に活用してみようとする。</li> </ul>	〇〇〇	5
	期末考査				〇〇	1

指導目標 知=知識及び技能 思=思考力、判断力、表現力等 学=学びに向かう力、人間性等

評価規準 知=知識・技能 思=思考・判断・表現 態=主体的に学習に取り組む態度

教科・科目		数学・進学数学(発展)			単位数	2単位
					対象学年	3学年
担当者		YI				
教科書		なし				
補助教材		10日あればいい!大学入試短期集中ゼミ 看護・医療系のための数学I・A				
目標		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等		
教科の目標		数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学科したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。		
科目の目標		解答するために必要な公式を理解し、それを実際に活用できるようになる。	問題において、与えられた条件や用語から必要な解法を判断できるようになる。また、その解法を論理的に説明し、表現できるようになる。	学んだことを「入試問題」に対してどう活用すべきかを身に付ける。問題の本質を見抜いて解き進めることができるようになる。		
	単元名	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知 思 態	配当時数
1学期	数と式	知 整式の加法・減法、乗法、因数分解や乗法公式の意味を理解している。	展開・因数分解・無理数の計算・実数	知 複雑な整式の計算の方法を理解している。	〇〇〇	11
		思 整式の基本的な性質を理解し、加法・減法の計算ができる。整式の席を展開することができる。		思 複雑な整式を目的に応じて変形し、処理することができる。		
		学 整式の加法・減法、乗法公式や因数分解などに関心を持ち、目的に応じて式の変形をしようとする。		態 整式の計算についての学習内容に関心を持ち、既習事項を生かして計算しようとする。		
	中間考査				〇〇	1
2学期	集合と命題	知 集合と命題について理解し、基本的な知識を身に付けている。	命題と集合	知 集合の表し方や関係を表す記号の意味を理解している。	〇〇〇	4
		思 集合を用いて命題の真偽について判断することができる。		思 集合を図や記号を用いて表現し、その関係を把握することができる。		
		学 集合と命題に関心をもつとともに、その有用性を認識し、それらを問題の解決に活用しようとする。		態 集合の関係からド・モルガンの法則に気づき、この法則を問題解決に活用しようとする。		
期末考査				〇〇	1	
2学期	2次関数	知 2次関数の性質とそのグラフの書き方を理解している。	2次関数とそのグラフ・2次関数の最大最小・2次方程式・2次不等式	知 2次関数の性質とそのグラフの書き方を理解している。	〇〇〇	12
		思 関数を用いて数量の変化を的確に表現することの有用性を理解する。		思 関数の値の変化を調べ、関数の最大・最小や2次方程式・2次不等式をグラフを用いて理解し、的確に処理することができる。		
		学 2次関数とそのグラフや値の変化、2次関数と2次方程式・2次不等式に関心を持ち、問題解決に意欲的に取り組もうとする。		態 関数をグラフで表すことの有用性を認識し、主体的に事象を調べようとする。		
	期末考査				〇〇	1
2学期	図形と計量	知 直角三角形における三角比の意味、三角比を鈍角まで拡張する意義を理解し、図形の計量の基本的な知識を身に付けている。	鋭角の三角比・鈍角の三角比・正弦定理と余弦定理・面積	知 三角比の表の意味を理解し、使うことができる。鈍角まで拡張した三角比の意義を理解している。	〇〇〇	12
		思 具体的な事象の数量の関係を三角比などを用いて表現し、図形の様々な計量を行うことができる。		思 三角形の決定条件が与えられたとき、三角形の残りの要素を求めることができる。2辺とその間の角が与えられている三角形の面積を求めることができる。		
		学 線分の長さや角の大きさなどを用いた計量に関心をもつとともに、それらの有用性を認識し、具体的な事象の考察に活用しようとする。		態 三角比に関心を持ち、直角三角形の計量に用いようとする。正弦定理・余弦定理が図形の計量の考察に有用であることに気づき、活用しようとする。		

データの分析	知 四分位偏差・分散・標準偏差・散布図と相関係数などの統計の用語の意味やその扱いを理解している。	データにおける代表値・データの散らばりと四分位数・分散と標準偏差	知 代表値としての平均値、中央値、最頻値を理解している。	〇〇〇	5
	思 統計の基本的な考えを用いてデータを整理・分析してその傾向を的確にとらえ説明することができる。		思 データを表や図に整理することができる。		
	学 様々な事象から見出される確率や統計に関するデータの分析に関心をもち、生活や問題解決の中で活用しようとする。		態 目的に応じてデータを収集し、散布図に表したり相関係数を求めたりして、その特性や法則性を調べようとする。		
中間考査				〇〇	1
場合の数・図形の性質	知 和の法則、積の法則、そして順列・組合せの考えを理解して、場合の数を求め、それから確率を求めるための知識を身につけている。	場合の数と確率。順列・組合せ。確率とその基本性質。三角形の性質。円の性質	知 順列・組合せの考えを理解し、場合の数を効率よく正確に求める多面の基礎的な力を身につけている。	〇〇〇	13
	思 具体的な授業の起こりうる場合の数を順列や組合せの考えを用いて表現し、確率の基本性質を活用して、その確率を求めることができる。		思 起こりうる場合を整理し、順列・組合せの考えを用いて、場合の数を正確に求めることができる。		
	学 不確実な事象を数学的にとらえることの有用性を認識し、具体的な事象の考察に活用しようとする。		態 場合の数を効率よく正確に数えるために、順列・組み合わせの考えを活用しようとする。		
総合演習	知 問題内容からどの分野が対応するかの判断基準が理解できる。	入試問題演習	知 各単元における基礎的な知識が身についている。	〇〇〇	6
	思 解法を的確な問題で用いることができるようになる。		思 公式・定理を的確に用いることができる。公式を複数の意味で用いることができる。		
	学 事象をとらえる中で、意欲的に想像し、できることをやろうとすることができる。		態 演習問題の意味を理解しようとする。手がかりをもとにどの分野が関係あるか判断できる。		
期末考査				〇〇	1
3学期	知 既習事項を複数分野で用いることができる。	入試問題演習	知 分野融合問題で使うべき基本事項を理解している。	〇〇〇	10
	思 分野が特定できない問題に対して、的確な解法を用いることができる。		思 学んだ定理や公式を用いることで何が得られるかを理解し、適切に用いることができる。		
	学 難しいという固定概念にとらわれることなく、既習事項を活用しようとするすることができる。		態 完全解答ではなくとも、自分ができるところまで既習事項を用いて解こうとする。		
期末考査				〇〇	1

指導目標 知=知識及び技能 思=思考力、判断力、表現力等 学=学びに向かう力、人間性等

評価規準 知=知識・技能 思=思考・判断・表現 態=主体的に学習に取り組む態度

教科・科目		数学・就職数学		単位数	2単位	
				対象学年	3学年	
担当者		Y3				
教科書		なし				
補助教材		「完全攻略 高校生の基礎数学トレーニング」「完全攻略 新版高校生のSPI問題集」				
目標		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等		
教科の目標		数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり評価・改善したりしようとする態度を身に付けている。		
科目の目標		数と式、関数、図形、確率・統計についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。		
単元名	単元の具体的な指導目標		指導項目・内容	評価規準		知 思 態 配当時数
1学期	数と式	知 数と式の計算の基本的な計算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●四則計算</li> <li>●小数・分数の計算</li> <li>●方程式</li> <li>●割合</li> <li>●比</li> </ul>	知 数と式の計算の基本的な計算ができる。	○○○	13
		思 数と式の性質に着目して、関連付けたり、問題を解決したりできる。		思 数と式の性質に着目して、関連付けたり、問題を解決したりできる。		
		学 目標を設定し、自ら学び、学習の過程を振り返ることができる。		態 目標を設定し、自ら学び、学習の過程を振り返ることができる。		
	中間考査				○○	1
1学期	文章題	知 必要な計算をすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●損益</li> <li>●料金</li> <li>●速さ・時間・距離</li> <li>●旅人算</li> </ul>	知 必要な計算をすることができる。	○○○	12
		思 原理・仕組みについて説明することができる。		思 原理・仕組みについて説明することができる。		
		学 目標を設定し、自ら学び、学習の過程を振り返ることができる。		態 目標を設定し、自ら学び、学習の過程を振り返ることができる。		
	期末考査				○○	1
2学期	工夫した計算	知 必要な計算をすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●流水算</li> <li>●植木算</li> <li>●鶴亀算</li> <li>●濃度算</li> <li>●年齢算</li> <li>●仕事算・水槽算</li> </ul>	知 必要な計算をすることができる。	○○○	14
		思 原理・仕組みについて説明することができる。		思 原理・仕組みについて説明することができる。		
		学 目標を設定し、自ら学び、学習の過程を振り返ることができる。		態 目標を設定し、自ら学び、学習の過程を振り返ることができる。		
	中間考査				○○	1
2学期	思考力問題	知 必要な計算をすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●順列・組み合わせ</li> <li>●確率</li> <li>●平均の計算</li> <li>●表の読み取り</li> <li>●図形</li> <li>●集合●推論</li> </ul>	知 必要な計算をすることができる。	○○○	14
		思 原理・仕組みについて説明することができる。		思 原理・仕組みについて説明することができる。		
		学 目標を設定し、自ら学び、学習の過程を振り返ることができる。		態 目標を設定し、自ら学び、学習の過程を振り返ることができる。		
	期末考査				○○	1
3学期	総合演習	知 必要な計算をすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●総合演習</li> <li>●振り返り</li> </ul>	知 必要な計算をすることができる。	○○○	20
		思 原理・仕組みについて説明することができる。		思 原理・仕組みについて説明することができる。		
		学 目標を設定し、自ら学び、学習の過程を振り返ることができる。		態 目標を設定し、自ら学び、学習の過程を振り返ることができる。		
	学年末考査				○○	1

指導目標 知=知識及び技能 思=思考力、判断力、表現力等 学=学びに向かう力、人間性等

評価規準 知=知識・技能 思=思考・判断・表現 態=主体的に学習に取り組む態度